

愛知県常滑市（国内 24 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 10 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 12 万羽）

発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 8 段ケージ 4 列（1 階・2 階各 4 段）、
通路 3 本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、海沿いの丘陵部にある養鶏団地の一角に位置する。養鶏団地の周辺は雑木林や収穫済みの水田に囲まれており、二番穂が出ているところもあった。
- ② 当該農場は、1 月 2 日に発生が確認された今シーズン国内 17 例目発生農場（愛知県 1 例目）が含まれる別の養鶏団地から南東に 500m ほどの距離にある養鶏団地内に位置する。
- ③ 当該農場は、同日発生が確認された国内 23 例目発生農場と幅 5 m ほどの道を挟んで隣り合っていた。
- ④ 当該農場は、ウインドウレス鶏舎 2 棟（1 棟 2 室）、集卵施設、堆肥処理施設等で構成されていた。発生鶏舎は、集卵施設を挟んで 23 例目農場の最寄りに位置していた。

3 通報までの経緯

- ① 農場長によると、発生鶏舎（通報時約 646 日齢）では約 3 万羽の採卵鶏が飼養されており、通常の死亡羽数は 1 日当たり 4～5 羽程度であるものの、1 月はじめに実施した誘導換羽の影響により直近 1 週間の死亡羽数は 1 日に平均 30 羽程確認されていた。
- ② 1 月 9 日の朝の見回り際、発生鶏舎では 20 羽の死亡鶏が散在して確認されていたとのこと。その後、昼の鶏舎内の掃除の際、鶏舎 1 階中央部分の下から 2 段目のケージで 7 羽まとまって死亡しているのが確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎では通報のあったケージ付近で複数の死亡鶏が認められた他、発生ケージの上段やその周囲で複数の死亡鶏が確認された。なお、その他の鶏舎では特に異状は認めなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、従業員が 11 名おり、1 名が鶏舎管理、2 名が鶏糞・堆肥作業、8 名が集卵作業に従事していたとのこと。また、農場長は、基本的に鶏舎には入らず、隣接する非発生農場とともに農場の全体管理を行っていたとのこと。
- ② 当該農場は、23 例目農場とともに、隣接する非発生農場から大雛を導入しており、導入作業時にはこれら 3 農場の従業員が運搬作業を行っていた。導入作業は外部業者が実施していた。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 当該農場の入口には、立入禁止看板と車両消毒用の動力噴霧器及び更衣室が設置されていた。農場入口及び鶏舎間等には消石灰が散布されていた。
- ② 当該農場の衛生管理区域を識別するため、区域の境界にはロープが張られていた。
- ③ 従業員が衛生管理区域内に立入る際は、衛生管理区域との境界にある従業員専用更衣室において、農場専用作業着に更衣、長靴交換、手指消毒を行っていたとのこと。なお、飼料運搬業者等の外部業者が来場する際は、業者専用更衣室において、

専用作業着への更衣、長靴交換、手指消毒を行い、運転席に場内用フロアマットを敷いた上で車両を農場内に入場させていたとのこと。

- ④ 従業員及び廃鶏業者等の外来者が鶏舎に立入る際は、鶏舎入口に設置した踏込消毒槽（逆性石鹼及び消石灰）で靴底消毒を実施し、鶏舎内用長靴への交換及び手指消毒を実施していたとのこと。長靴の交換場所は交換前後で交差しないように配置されていた。
- ⑤ 鶏舎の周囲には消石灰が散布されており、週に1回の頻度で追加散布を行っているとのこと。
- ⑥ 発生鶏舎では、鶏舎妻側のクーリングパッド及び天井に設置されたインレットから入気し、反対側の鶏舎妻側の排気ファンから排気していた。なお、クーリングパッド及び排気ファン等の開口部外側には、防鳥用の金網又はネットが設置されていた。
- ⑦ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に繋がっていた。
- ⑧ 給与水には、消毒済みの地下水を使用しているとのこと。
- ⑨ 集卵コンベアの鶏舎外出口にはシャッターの設置はなかったが、上部はカバーで覆われ、下部には金網が設置することで野生動物侵入防止対策としていた。
- ⑩ 鶏舎内には外気入気の糞乾装置があり、入気口には金網とフィルターが設置されていた。
- ⑪ 発生鶏舎の鶏糞は、4日おきに除糞ベルトを稼働させ、鶏舎外に搬出しているとのこと。なお、鶏舎内の除糞ベルトの鶏舎内落とし口には蓋は設置されていないが、鶏舎外に出ている部分はカバー及び防鳥ネットで覆い、野生動物侵入防止対策としていた。
- ⑫ 鶏舎外に搬出された鶏糞は堆肥舎内で発酵処理しているとのこと。堆肥は外部業者が不定期に搬出しており、直近の出荷は1月8日とのことであった。なお、堆肥を搬出する際は、飼料搬入時とは別の入口を使用し、入場時の車両消毒、更衣、長靴交換、手指消毒を実施していたとのこと。
- ⑬ 堆肥舎には防鳥ネットが設置されていた。農場長によると、作業時まれに小型の野鳥が侵入することもあるとのこと。
- ⑭ 死亡鶏は、ビニールの袋に入れたうえで鶏舎内出口付近に保管し、1日の作業の最後に袋をアルコール消毒のうえ、プラスチックコンテナへ入れ国内23例目農場の敷地内（衛生管理区域外）に設置された焼却炉まで運搬し、袋ごと焼却処分しているとのこと。運搬に使用したコンテナ等は農場に戻す前に消毒を行っているとのこと。
- ⑮ 鶏舎内の廃棄卵については、鶏舎清掃時に鶏舎内の除糞コンベアに落とし、鶏糞に混ぜて発酵処理しているとのこと。
- ⑯ 周辺での続発を受け、農場前の道路を消毒し、また飼養衛生管理区域内も消毒を実施した。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場長によると、農場周辺では、カラス、ネコ、イタチ、スズメ、セキレイなどを見かけるとのこと。また、農場敷地内でカラスを見ることは少ないが、カラス除け用のタコを揚げるほか、電力会社に依頼し周辺の電線に鳥よけを設置したり、カラスを見つけた際は、レーザーポインターで追い払っているとのこと。調査時、農場敷地内でスズメ及びセキレイを見かけたほか、周辺の林や水田でカラスを見かけた。
- ② 鶏舎内でネズミが確認されるため、鶏舎内に殺鼠剤と粘着シートを設置しているとのこと。調査時、本病発生後に設置した粘着シートにネズミがかかっていたほか、かじり跡等のラットサインを確認した。

(以上)